



# 水試 ニュース

corallicola

2003年8月  
通巻 24号

沖縄県水産試験場 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎1-3-1  
TEL 098-994-3593  
FAX 098-994-8703  
http://www.pref.okinawa.jp/fish/

## 顔の見える試験研究機関をめざして

～ 復々刊ご挨拶 ～



場長 村越 正慶

この4月に水産試験場本場へ転勤になりました。水試の糸満勤務は、八重山支場、栽培漁業センターを経て7年振り、2度目となります。

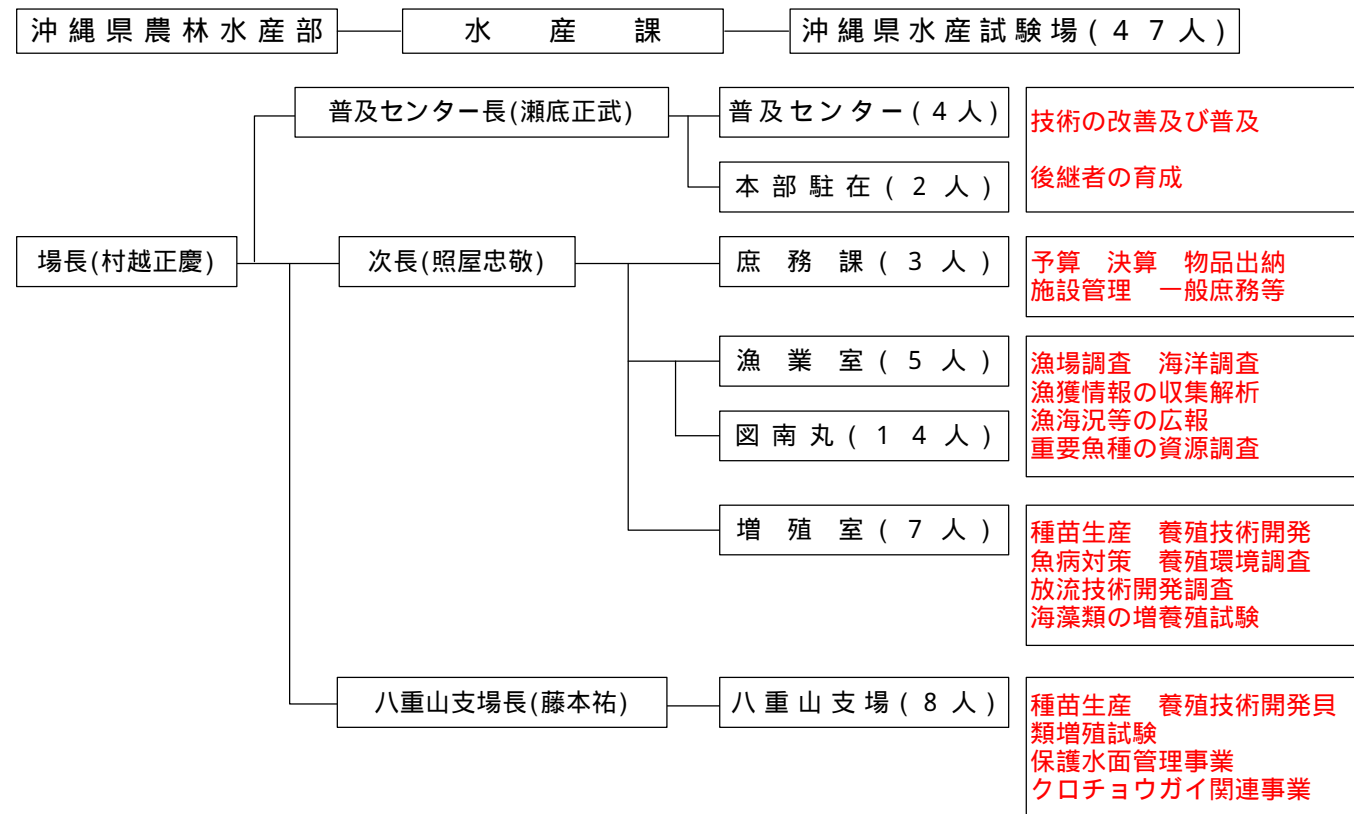
前回の勤務で「水試ニュース」の復刊に携わりました。最初の「水試ニュース」は、昭和53年6月から年間1～2号のペースで、昭和61年6月の17号まで発行されていました。しばらく休刊となり、平成6年6月に通巻18号から復刊し、平成9年9月まで発行され、その後は、また休刊を始めました。この度も、すでに6年近い眠りについていました。

今回の復刊は、水試と現場を繋ぐ「小さな情報の窓」として、既刊の「漁海況情報」に、時折、合巻して関連情報が提供出来たらと考えております。

平成15年度の試験研究部門は本場11名、支場5名の研究員で合計37課題の「調査試験研究」に、また普及部門は普及センター、本部駐在の7名の専任普及員が、普及指導業務に加え、より実践的な「重点普及課題」にそれぞれ取り組むことになっております。

特に今年度から県庁の水産課と共に「水産試験場の移転整備」に着手しようとしています。この移転整備事業は、関係各位のご理解が推進の原動力と考えております。そこで、機会あるごとに、その必要性をご説明申し上げていくつもりですので、本水試ニュース共々、よろしくご指導、ご支援の程をお願い申し上げます。

### 組 織 図



### 水産試験場成果発表会開催のお知らせ

平成15年10月16日に水産会館（那覇市）で水産試験場成果発表会を開催します。数ある研究課題の中から実践的な研究成果を発表しますので、是非ご来場ください。



漁業室長 渡辺利明

### 漁業室の業務内容紹介

漁業室はソデイカやマグロなどの漁船漁業に関する研究、マチ類やハタ類などの資源管理に関する研究、海洋環境情報と漁獲情報の収集と広報、および漁獲統計の整備を行っています。

ソデイカ関連（担当：渡辺利明） ソデイカの沖合漁場の探索を目的として、昨年度から3カ年計画で、八重山から南北大東島までの海域を調査しています。また、標識放流による移動回遊の調査もしています。漁場の拡大や回遊経路の解明によって、漁獲量の増大や安定化が見込まれます。

マグロ関連（担当：太田格） パヤオで漁獲されるキハダ・メバチのパヤオ周辺での行動について これまでに、パヤオに1～2週間程度付いていることや、パヤオ間を移動することなどがわかりました。またヤケに関する研究も実施しています。これらは、パヤオ漁業の効率化、適切な資源管理、漁獲物の品質保持に貢献できます。

資源管理関連（担当：海老沢明彦） 魚類の資源管理に必要な基礎的な生物・漁獲情報を収集し、管理手法の提案にむけ研究を進めています。研究成果をもとに、イソフエフキ（くちなじ：八重山海域）やハマフエフキ（たまん：今帰仁・羽地海域）の資源管理を実施しており、今年度からは「北部海域での電灯潜り漁の資源管理」が始まります。

漁海況関連（担当：下條武） 調査船図南丸、大東・台湾航路フェリー、大型パヤオ「ニライ」で観測した海況情報と漁協さんから提供して頂いた漁獲情報を整理し、漁海況情報として広報し、HPでも閲覧できるようにしています。今後は、蓄積された海洋環境と漁獲情報を解析して、海況と漁況の関係を明らかにする研究を進めていきます。

漁獲統計関連（担当：福田将数） 漁獲統計は適切な水産行政施策の策定や、資源管理の実施に必要な基礎情報です。サンゴ礁に囲まれた沖縄県は、魚種組成が独特なため、国レベルの魚種分類基準はなじまず、県独自の基準で整備が必要なことから、県下全域の漁協さんの協力により1990年以降、高い精度の漁獲統計を作成しています。



増殖室長 島袋新功

### 増殖室の業務内容紹介

増殖室は需要に見合った水産物を供給するために「つくる漁業」の技術開発・事業展開を推進し養殖業及び増殖（＝栽培漁業）の振興を図ることを目標に実用化試験研究を行っています。

シラヒゲウニ（担当：島袋新功） 平成7年～11年の放流技術開発事業により、標識放流や漁業実態を把握しました。現在、適正放流環境等の調査を行っています。

ミミガイ（担当：佐多忠夫） 可食部の多いミミガイ類の種苗生産及び養殖技術の開発を平成14年度から3カ年計画で実施しています。

スギ（担当：中村博幸） 収容時期別飼育試験、餌料別飼育試験、疾病対策試験等を実施しています。ヤイトハタ（担当：中村博幸） 県内養殖場で寄生虫やイリドウイルス対策試験、適正餌料試験等を実施しています。

モズク（担当：諸見里聡） 採苗・育苗技術を改良し、安定した養殖技術を確立することを目標にしています。養殖魚介類の耐病性試験と養殖漁場環境調査（担当：杉山昭博・熊谷明子） 養殖場で発生する疾病の調査研究、病原性の確認試験（病原菌の分離、培養、確認試験、同定、保存）や環境調査を行っています。

タイワンガザミ（担当：中村博幸） タイワンガザミの放流効果を調査しています。特定海域海産生物放射能調査（担当：佐多忠夫） 海産生物に含まれる放射能の長期変化を調査しています。

特定海域海産生物放射能調査（担当：佐多忠夫） 海産生物に含まれる放射能の長期変化を調査しています。



センター長 瀬底正武

### 普及センターの業務内容紹介

普及事業は、新たな漁業情勢に対応し他の水産諸施策と有機的連携を保ちながら推進することが重要であり、本県水産業の課題等に沿った普及指導活動を展開することが必要です。主要産業であるモズク養殖業、パヤオ漁業、ソデイカ漁業をはじめ魚類養殖やトコブシ養殖にも力を注いでいます。近年は商品価値の高いシラヒゲウニの現場実践による種苗生産と養殖試験が進められ、現地における実践的な普及指導を通じて、自主的に漁業経営に取り組む漁業者育成に努めています。

水産業改良普及事業は、沿岸漁業等の生産性の向上及び経営の近代化並びに沿岸漁業等の従事者の生活改善を図ることを目的として、青年漁業者が中心となって漁業経営改善の取り組みを行う「中核的漁業者協業体育成事業」、次代を担う若い漁業者の育成のための「若い漁業者確保推進会議」が普及業務の骨格となっています。その他「重点普及課題」を平成13年から3年間を目途に10課題を設定し、普及活動の継続性や実効性のある計画作りを目指し、成果は生産集団等への技術指導にあたるとともに、行政・研究員との情報交換等に寄与させています。

普及センター	瀬底正武：藻類全般・青壮年部担当	本部駐在	大城信弘：介類・藻類担当
	與那嶺盛次：介類（ウニ等）担当		牧野清人：魚類養殖担当
	山田真之：漁船漁業・魚類養殖担当		
	中村勇次：藻類（モズク）担当		
	城間一仁：介類（トコブシ等）担当		

編集後記：副題の corallicola（コラリコーラ）とはラテン語で「サンゴ礁に住んでいる」という意味。サンゴ礁の海でいつまでも暮らせますように（下）。